



**Amir Tsarfati**

**2020年12月30日中東時事アップデート**

**-サウジアラビア、それともトルコイスラエルはどちらを選ぶのか-**

シャローム、みなさん、アミール・ツアルファティです。中東時事アップデートをライブでお届けします。これは非常に重要なアップデートです。最近、多くのことが起こっています。残念ながら、FacebookとYouTubeは、どちらもこの動画を抑圧しているため、視聴者がゼロということになっています。皆さんが見ておられることはチャットからわかりますから、なぜ彼らがそうしているのかはわかりません。しかし、とにかくライブを続けます。

まず最初にお伝えしたいことがあります。このアップデートが終わって、イスラエル時間の午後10時に「コロナワクチン、信仰、終わりの時」という動画を放映します。制作したばかりの超重要な動画です。実際、私は皆さんに、こちらの予告動画をお見せしたいと思います。

[私たちは、黙示録の時代に生きているのでしょうか？]  
 [私たちのDNAが組み換えられる可能性はあるのでしょうか？]  
 [女性は、ワクチンを受けることで、不妊症になるのでしょうか？]  
 [ワクチンが獣のしるしである可能性は、あるのでしょうか？]  
 [信者は救いを失うのでしょうか？]  
 [「ワクチン、信仰、終わりの時」]



ワクチンはできています。準備は良いですか？  
 [近日公開]

ということで、ご覧の通り、この動画はもうすぐ公開されます。あとちょっとです。2時間以内にYouTubeとFacebookでご覧になれます。私たちは皆、皆さんが大いに祝福されるだけでなく、非常によく情報を知ることができ、学ぶことができると確信しています。その後、どうしたいかは皆さん次第です。私たちは、どなたの決断にも責任を持つことはできません。私たちに何が必要か、何を体に取り入れるかは自分で決断しなければなりません。しかし、一つだけ確かなことがあります。これは新生して御霊に満たされた専門分野にいるクリスチャンたちと私との、とても心のこもった議論です。ご覧になれば分かるでしょう。

それでは、お祈りから始めましょう。いくつかの非常に重要なアップデートについてご説明します。よろしいですか？

お父様、あなたは初めから終わりを知っておられます。あなたはすべてを掌握しておられます。あなたは、あなたの子どものためにここにおられます。もし、彼らがあなたの声に耳を傾け、あなたのみことばと警告に忠実であれば、あなたは、彼らを他の人に利用させたり、道に迷わせたりすることはありません。ですから父なる神様、私たちに見る目と御霊の言うことを聞く耳を与えてくださいますようお願いいたします。いつも、私たちを、あなたの御言葉にとどめて下さい。あなたのみことばは真理で、私たちは、その真理によって聖別される必要があるからです。あなたに感謝し、私たちの尊いメシア、イエスの御名によって、あなたを祝福します。アーメン。



さて、シャローム、皆さん。今回の中東アップデートですが、ここ数時間のイエメンで起こった出来事から始めたいと思います。信じられないかもしれませんが、イエメンではイランに支援されているフーシ派が、自国の政府を攻撃しています。そして、今日アデン空港で何が起こったのかを見てみましょう。サウジに支持された政府が、アデン空港に飛行機で着陸し、閣僚や幹部が階段を歩いて降り始めた時、何が起こったのかをご覧ください。（サウジアラビアのビデオ再生）

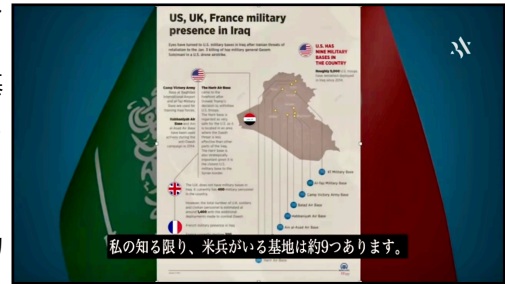
実際には、今ご覧になったのは、一つの角度からのものです。本当に何が起って、皆を走らせる原因となったかを別の角度から見たい場合は、少しボケていますがカメラに捉えた人がいました。（サウジアラビアのビデオ再生）ですから基本的に、イランの支援を受けているフーシ派が空港を攻撃していたのです。そこに、サウジの支援を受けた政府がアデン市、アデン湾を訪問するために着陸していたところでした。そして何が起こったのかというと、死者30人以上、負傷者も多数出ています。もちろん、この役人たちは数マイル離れた政府の宮殿に搬送されました。そして数時間後、その宮殿もまた、フーシ派によって発射されたロケットによって攻撃されました。彼らは数発のロケットを撃ちました。ご覧の通り、迫撃砲弾やその他のものがありました。そして彼らは何が来るかを知っており、それに備えて十分に準備していました。私がそう言っているのは、今日のアップデートの一部で私たちはイランを扱うからです。

イランはソレイマニの死に復讐し、報復する決意です。もうすぐ、ちょうど一年経ちます。1月3日です。彼らは、アメリカ人がすぐ近くにいることを理解しており、自分たちの兵士には一切触れさせません。イラン人も…面白い戦術を持っていて、それはずっと長い間、功を奏してきました。彼らは、ご存じのように、自分たちの軍隊を使っては物事を行いません。イランがどうするかと言えば、彼らは民兵を訓練し、彼らが関与している様々な国で代理を訓練します。レバノンやシリア、イラク、さらにはイエメンなどで、彼らがイランのために仕事をします。彼らがイランのために手を汚しているので、イランは「何もしていない」と言えますが、もちろんイランはロケットを供給し、弾薬を供給し、全ての命令を出し、この人たちを訓練します。私たちは中東がほぼ全面戦争に非常に、非常に、非常に近づいている瞬間を見ています。イランの代理人とイラン、そしてもちろん周りの他のすべての人たちの間の戦いです。実際、アメリカはイランから来るかもしれない不正行為に備えて、しっかりと準備をしています。この写真は昨日撮ったものです。それは、アメリカからペルシャ湾に向かって飛んでいた2機のB-52（戦略爆撃機）のうちの1機で、途中で空中で燃料を供給されているB-52です。今朝の時点では、イスラエルを横切って地中海を横断し、ペルシャ湾に向かっていきます。これら2機は、すでにその地域の米空軍基地にある少なくとも6機に追加されようとしています。これらは重爆撃機です。これらの爆撃機はステルスです。これらは重量物を運搬できて、アメリカにちょっかいを出そうとする相手には大ダメージを与えることができます。アメリカ国防省の言うところでは、これはイランに、アメリカ軍に何かをしようとする考えをさせないようにするものです。言っておきますが、アメリカ軍は今、この数時間、イラクで実弾訓練を行っており、このような訓練のために、これらの空軍基地上の空域は完全に閉鎖されています。



さて、ご説明させていただきますと、12月20日までさかのぼります。21発のロケットがバグダッドの米国大使館があるグリーンゾーンに撃ち込まれた時のことです。そしてそこでは、それらの中には、グリーンゾーンにいるイラク軍に阻止されたものもありますが、数発は着弾しました。感謝なことに、大きな被害はありませんでしたが、アメリカの将軍、セントコム(アメリカ中央軍)の司令官がちょうどその時、アメリカ大使館にいました。皆さんに知っておいていただきたいのですが、アメリカは、イラク人がそんな事を許したということに非常に腹を立てました。そして基本的に、アメリカ政府はイラクのアルカディミ首相にこう告げました。あなたが、A.)犯人を捕まえて逮捕し、二度と同じことが起こらないようにしないなら、我々はイラクから全軍5000人を避難させる。アメリカがイラクから兵士を避難させるや否や、数時間内にイランが乗っ取るでしょう。数日もかかりません。それまでです。これはまさにイランが望んでいることです。イランは米軍をイラクから追い出すことを望んでいます。永遠にイラクを乗っ取るためです。

さて、現時点ではこんな感じです。ご覧になれるかどうかはわかりませんが、これが現在イラクにおけるアメリカ、イギリス、フランスの軍事的存在です。私の知る限り、米兵がいる基地は約9つあります。かなりの数がバグダッドの地域にありますが、他にクルド人がいる北部にもあります。アメリカはこう言っています。「ほら皆さん、我々はイラクを助けるためにここにいるのだが、もしイラクが、我々がここに駐留するのを助けられないなら、我々はここに留まるつもりはない。私たちは家に帰る。これからはイランが仕切るだろう。」と。そしてそれは、イランと同じシーア派であるイラクのシーア派でさえも、イランをイラクに入れたくないのです。彼らは独自のアイデンティティを持っています。彼らはイラク人で、異なる言語を話します。彼らはアラブ人でペルシャ語話者ではなく、ペルシャ人でもありません。異なる類の人たちです。同じ宗教の宗派ですが、それだけです。ですから、皆さんに理解してください。米国は、イランから来る何かに備えています。一方、イランはアメリカが火遊びをしていると言っています。「かなりの数のB-52（戦略爆撃機）とF-16（戦闘機）、F-15（戦闘機）とF-35（ステルス戦闘機）がいたるところで見られ、我々は米国が攻撃するのではないかと感じており、そして、米国にそのような”道”を歩まないように警告している」と。彼らはそれを”冒険”と呼んでいます。彼らは皆、どういうわけか、トランプ大統領が2期目を継続せず、そのため1月20日までの最後の1週間で、ホワイトハウスを出る前にイランの核施設を攻撃するのではないかと恐れているのです。これがイラン人が恐れていることであり、ちなみにそれが誰も怒らせるようなことをしないように彼らがグッと我慢している理由でもあります。彼らは、トランプがホワイトハウスを去ると信じていて、バイデンが大統領になったらやりたい放題出来ると思っているのです。これが彼らの考え方で、彼らはずっとそのように考えてきたのです。実際、1年前、彼らはすでにソレイマニの死に復讐することを誓っていました。去年は彼らは何もしませんでした。そこにある米軍基地に向けて発砲した数発の空砲弾を除けば、イランがしたことはあんまりなくて、彼らは自分たちが何もできないことを知っています。この時点で、イランは財政的にも弱すぎます。彼らは財政的に弱すぎて、すべての代理人を後援することはできません。彼らはフーシ派にも、イラクのヒズボラにも、レバノンのヒズボラにも、もちろんシリアの民兵にも十分な資金を与えていません。したがって、今現在、イランは最低のレベル、どん底を経験していますが、バイデン政権が、言うまでもなくオバマ政権の時のように簡単に操ることができるようになることを大いに期待しています。ちなみに、ただ彼らが望んでいるのは制裁が解除されて、数十億が流れ込み続けることです。自国民に与えるためではありません。イランの国の人々は死にかけています。イランの国の人々には希望がありません。



私の知っていることからお話をさせてください。今、イラン人の中では絶望が広まっていて、重度の麻薬使用者が急増しています。そして、これがイラン人が望んでいることです。彼らは、人々がロボットのようなになれば良いと思っています。彼らは人々を操りたい、人々を何か薬物のような物質に完全に依存させたい、それだけのことです。可能な人は出国します。が、そう出来る人はあまり多くはなく、もちろん絶望が濃く、希望がありません。私たちはイランの人々のために祈る必要があります。2019年に起こったことは、今は起こりえません。特にイラン人が…ほら、イランの人々でさえ、バイデンが大統領として戻ってくるのではないかと恐れています。そうなる、もちろん誰も彼らの面倒を見てはくれません。だからイラン人は…ほら、民主党はいつも「人権」を大事にしますね。しかしイランのこととなると、彼らはそれを全く気にしないようです。ですから、どうなるかは非常に興味深いことになりそうです。まあ、一つ確かなのは



今、アメリカは中東で最高度の厳戒態勢にあり、イランも今、最高度の厳戒態勢にあります。イランの将軍たちは、あちこち見回って、確認しています。十分な…ほら、イスラエルは潜水艦を送りました。イスラエルが潜水艦を送ったのです。すでにそこにいる米海軍、ニミッツ戦隊などは考えないでください。そこで、イラン人が何を送ってきたか、ご覧ください。彼らは「ああ、イスラエルが潜水艦を送ってくると？それなら、我々も送ろう。」と言いました。三人です、潜水艦に。それは、彼らが今、どれほど問題を抱えているかを物語っています。



彼らは現在、非常に大きな問題を抱えています。そして彼らはそれを理解し、それを知っているのです。そして彼らはこの時点で、本当にどうして良いのか分からない。ですから、これが今の状態です、皆さん。今、ペルシャ湾では大変な一触即発の状況にあります。繰り返しますが、アメリカは多くの重爆撃機や海軍の偵察で存在感を高めています。現在、ペルシャ湾でのアメリカ側の存在すべては最高警戒態勢にあり、私たちはそれを理解する必要があります。

また、皆さんにお伝えしたいのは、イスラエルが昨夜、再びイランの標的を攻撃したということです。今回は昨夜、ダマスカスの北西部を攻撃しました。ヒズボラ所有の標的でしたが、シリア側で、レバノンとの国境に近いところです。これは、ナビ・ハビルと呼ばれる地域です。そして、2019年以来、ロシアはイスラエルの航空作戦を妨害しようとしているので、それは非常に興味深いものです。ご存知かどうか分かりませんが、ロシアは電子戦を使っていて、機器を妨害し、イスラエルのロケットやミサイルのGPSをどうにかして混乱させています。実際には、ここだけではありません。ご覧ください。「ロシアのGPS妨害システムがウクライナに戻ってきた。」同じもの、R-330Zhです。それはシリアで使われているもので、どこにでも影響します。それはシリアだけに影響があるわけではありません。レバノンやイスラエル北部、シリア、



イラクとの国境に近い地域にも影響が出ます。これがこの機械の様相です。いわば妨害装置です。これをご覧ください。ほら、それはロシア製のもので、彼らは試みています。しかし問題は、イスラエルのすべての空爆が成功したことです。つまり、我々の巡航ミサイルは彼らの妨害装置よりも賢いのです。そしてロシアはそれを理解しており、それを知っていて、そこで起こっていることに非常に、非常に不満を抱いています。そういうわけで、イラク側で、イランとの関係も含めてどうなっているのかという話をしました。今日イエメンで何が起きているのか、イスラエルの攻撃について話しました。ちなみにこの1週間で2回の攻撃がありました。一つは研究センターの中で、イスラエルはイランのミサイルのサイロと研究施設を破壊しました。そしてもちろん、昨夜はヒズボラの標的を破壊しました。ですから私たちは、する必要のある事をし続けています。たとえロシアが妨害工作をしようとしても、です。



今日のこのアップデートのテーマは「サウジアラビアそれともトルコ？イスラエルはどちらを選ぶのか」です。そしておそらく皆さんは自問しているでしょう。「なぜ、この2国間で選択しなければならないのか？」さて、はっきりさせましょう。シーア派がスンニ派と戦うように、イランが直接的、間接的にサウジアラビアと戦っている以上に、スンニ派の陣営では、スンニ派のリーダーを主張するトルコとサウジアラビアの間に、大きなライバル関係があります。ほら、イランは行く先々で、すべてを破壊しています。トルコも行く先々ですべてを破壊します。こっちはシーア派のためにそれを行なっていて、他方は、スンニ派のために行なっています。しかし、トルコは間違いなく、どうにかしてトルコを再び偉大な国にしようとしている、あるいは、オスマン帝国を元の姿に戻そうとしていると言えるかもしれません。トルコの手は、北はアゼルバイジャン、シリア、イラク、リビアにもあります。そしてそれが彼ら次第であるならば、彼らはキプロスとギリシャの一部も取りたいと思っています。非常に興味深いことです。なぜかという、ここ数日、トルコ側からのアプローチの変化が、非常に興味深いものになってきているからです。エルドアンはまず、公にイスラエルを攻撃するのを数週間前にやめています。しかし、私たちが見ているのは、エルドアンに近い顧問が2人いて、そのうちの1人はマスカヒト・アルスランと呼ばれていて、彼は大統領の外交顧問です。もう一人は、海軍提督のチハット・ヤイシュ提督です。覚えていらっしゃれば、彼はリビアとトルコの間で領海を分割する計画を描いた人物です。二人ともメディアのインタビューを受け、イスラエルに対して非常に興味深い提案をしました。彼らは突然、イスラエルがトルコとの緊密な関係に戻るべきで、その逆も然りと信じています。私たちのことをナチスとか、土地泥棒とか、殺人犯と呼んだりした後で。エルドアンがあらゆる事をした後に。今、彼らは突然、私たちの注意を引き付けようとしています。では、ここ数日の間に彼らは具体的に何を言ったのでしょうか？最初に彼らが言ったのは、「イスラエルはトルコとの関係が良好であれば得るものが多い。なぜなら、イスラエルは80~90年代に数十億ドルで我々に武器や軍事シス

テムを売っており、イスラエルは非常に親しい友人だったからだ。」と。私が思うに、トルコはアゼルバイジャンがアルメニアに対して使っていたイスラエルの装備に驚き、イスラエルの先進性にショックを受け、自分たちがはるかに遅れていることに気付いたのではないのでしょうか。

第二に、信じがたいことですが、彼らは、「イスラエルは地中海でガスを発見したが、イスラエルはたったの800万人だ」と言いました。もちろん、本当は940万人ですが、彼らは800万人と言いました。彼らは、私たちが彼らにとって大きな市場になることを望んでいます。彼らはまた、私たちが彼らのガスをヨーロッパや他の場所に運ぶことを望んでいます。実際、彼らは私たちにとても寛大で、この面白い設計図を描きたいと申し出ました。トルコとリビアの間で領海を分割する計画を描いたあの提督が、今、イスラエルとトルコの間でやっています。これをご覧ください。途中、キプロス島がはっきりと見えます。そしてトルコが基本的に言っているのは、「ほら、イスラエル、あなたは多くの土地を持つことができるだけでなく、キプロスとの合意に基づいて、2010年にキプロスに与えたものは何でも取り戻すことができます。もっとガスが手に入るし、より多くの土地が手に入るでしょう。そしてねえ、私たちと繋がれるんですよ。ちょうど私たちが…」そして、ちなみに、このやり方だと、彼らはこの地域の一部に対するキプロスとギリシャの権利を完全に無視しています。そして、トルコにとって、キプロスなどどうでもいいことが、はっきりと見て取れます。キプロスは彼らが無視しているものです。それで皆さん、トルコはそう言うだけでなく、トルコはイランに対してイスラエルと協力すると申し出ました。シリアに関しては、トルコはイランの同盟国かもしれませんが、トルコとイランは仲良くありません。トルコはスンニ派、イランはシーア派で、トルコはイランがシリアをはじめ、中東のどこを乗っ取ることも望んでいません。だから彼らは言っているのです。「ほら、あなたがたはイランの敵だ。我々はその分野でもあなたがたを助けることができる。我々は彼らと国境を接しているから。」



4つ目、彼らは、「ほら、我々の大使をテルアビブに帰して、アンカラにあなたがたの大使を送り返せば、2ヶ月以内に我々の相違点を全て解決できるだろう」と言ってきました。面白くないですか？そのすべてはエルドアンから来ています。彼らは私たちが心底から憎んでいるのに、なぜか、彼は甘い言葉と空約束だらけです。あなたも私も、彼らが一番受け入れたくないのはイスラエルであることを知っています。彼らは自分たちが進退窮まっているのを見たから。他の選択肢があるのが分かったら、最初に捨てられるのは我々です。私達はそれを知っています。それはいつか来た道、もう見てきました。しかし、10年前にトルコとイスラエルの間に溝ができて始めました。そして過去10年を振り返ってみると、イスラエルの経済、通貨が急騰し、イスラエルのイノベーションが急上昇した一方で、トルコは、エルドアンが始めた頃にはピークでしたが、今ではほぼ最悪の金融経済状況にあることがわかります。そして、彼らは外貨準備高が枯渇しており、インフレ率が高く、失業率が20%以上と高くなっています。彼らの信用度は非常に悪く、突然私たちが必要となったのです。それで、ただ私たちが彼らを助けるのでしょうか？

現在、エルドアンのトルコとイスラエルの間で起こっている様々なことを見るのと同時に、ここ数日でテルアビブを発った航空便がもう幾つかあったことを報告します。サウジアラビアへの直行便ということから生じる緊張をかわすために、フライトはキプロスに着陸し、そこから続けてサウジアラビアへと飛びます。イスラエルは、正常化協定についてサウジと交渉を続けています。さて、前にも言いましたが、サウジアラビアはそんなに早く国交正常化自体には調印しないかもしれないということをご理解ください。しかし、アラブ首長国連邦とバーレーン、おそらくパキスタンとインドネシアが次の候補になるかもしれないという事実、スーダンとモロッコは言うまでもなく、これらの国々はすべて、何らかの形でサウジの同意またはサウジの承認を必要としていました。サウジアラビアはスンニ派の世界のリーダーであり、イスラム教の最も神聖な場所がすべてある場所です。サウジアラビアは、イスラエルとの関係を正常化するために、これらの国々に青信号を出しました。それだけでなく、サウジはイスラエルの旅客機とイスラエルに出入りするすべての航空会社に彼らの空域を飛行することを許可します。それは私に言わせれば、正常化であることを意味

します。サウジはすでにイスラエルと取引をしています。公式ではなく審議中なのかもしれませんが、私たちは彼らに自分たちの身を守るために必要なものを売っているわけですし、諜報活動や他の点でも間違いなく連携しています。それで皆さんは自問しているでしょう。「じゃあイスラエルは、将来一緒に歩むということになると、誰を選ぶのか？」と。皆さんが聖書預言の学者であれば、すでに答えは分かっていると思います。トルコは今、有利な立場を取ろうとしているのかもしれませんが。彼らはバイデン政権の可能性を恐れていますし、他の多くの理由から、イスラエルに協力する時が来たのかもしれないと感じています。しかし、皆さんにお伝えしたいのは、聖書はすでに何が起こるかを教えてくれているということです。エゼキエル書38章のゴグとマゴグの戦いの記述を注意深く読んでみると、ゴグとマゴグの戦いには、二つの節があり、一つは攻撃に協力する者、そしてもう一つは攻撃に抗議する者です。6節には、

**「ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる。」**

と書かれています。それが、こんにちのトルコです。彼らはロシアであるロシアとの連合の一部であり、ベルシャと、プテとクシュ、すなわちリビアとスーダンも入っています。ですから、それは既にできているんですよ。私たちはトルコがイスラエルを攻撃する側にいることを知っています。しかし、13節にはサウジアラビアと、こんにちの湾岸地域の聖書の名前である

**「シェバやデダンやタルシシュの商人たち（ヨーロッパかもしれない）およびそのすべての若い獅子たち（アメリカであるかもしれないと示唆する人もいる）は、あなたに聞こう。『あなたは物を分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために集団を集め、銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪をしようとするのか』と。」**

彼らは攻撃する側の一部になることはなく、抗議する側になるでしょう。ですから、聖書的には、すでに選択が行われていることがはっきりと分かります。そして、10年前から始まったエルドアンと彼の不正行為は、どんどん悪化していくばかりで、おそらく両国の間に架け橋を築くことはないでしょう。繰り返しますが、戦術的な理由でイスラエルはトルコに少しだけ温厚になるかもしれませんが、それはなぜかと言うと、ギリシャとキプロスが私たちにトルコという選択肢があることを知ったら、私たちが彼らと取引をするとき、彼らは私たちにもっと寛大になるだろうからです。分かりますか？この世界はそういう風に機能するんです。だからトルコを選択肢に入れておくのは、他の人を味方につけ、捨てられないためにも、常に良いことなのかもしれません。これは、私たちがここで見ているように、エルドアンからの非常に甘い誘い文句で、サウジアラビアがイスラエルとの正常化に向けてより早く歩むように促進するかもしれません。私はそう信じています。そしてもちろん、それは聖書から明らかなことです。それどころか、トルコが攻撃している間、サウジは抗議をすることになります。これは決まっていることです。

皆さんに知っておいていただきたいのですが、数日後には私はイスラエルを出て、アメリカに行きます。私は1月6日に、ワシントンDCへ行くためにアメリカに行きます。祈るだけでなく、立ち上がるためにもそこにいたいのです。アメリカ人以外の人たちの声を出すために、そこにいたいと思っています。彼らはいかに選挙が盗まれたのかが分かっているだけではなく、もし民主党がそのように政権を取ったら、世界全体が想像以上に早く進んで行くかもしれないことを知っています。ところで勘違いしないでください。バイデンが正々堂々と勝っていれば、私は何の問題もなかったでしょう。それはすごく嫌ですけど、しかし繰り返しますが、私にすれば、それは反キリストがアメリカに入ってきて、簡単に戴冠できるということを意味するだけです。明らかに人々は条件づけられていますから。しかし、そうではありません。私が信じるに、8,000万人近くの人がトランプ氏に投票し、彼はアメリカのほぼ全州で圧倒的な勝利を収めたのですから、そうではありません。ちなみに、現在ジョージアで公聴会が行われています。私はここ数時間聞いています。ジョージア州議会の公聴会では信じがたい事が言われています。彼らがすでに結果を認証してワシントンDCに送った後、なぜ今やっとそれが行われているのか私には分かりません。

もう一つの非常に悩ましいことは、次期女性下院議員のマージョリー・テイラー・グリーンズのツイッターを読んだのですが、彼女が書いたものを見てください。彼女は1時間前にそれを書きました。「議会では、ミッチ・マコーネルとナンシー・ペロシが、私たちの選挙区証明書の異議をブロックするためのルール変更”取引”について協力する可能性があることを伝えています。」これこそがまさに私が、アメリカ人がDCに行って、議会の悪党どもに、彼らが国民に監視されていることを知らせるべきだと思う理由です。私は、これらの紛争中の選挙が、ペンス副大統領が上院の議長として、これらのスイング州、6州の認証を承認しないことになる可能性がかなりあると思っています。そして、それはバイデンを必要とする過半数以下に下げることになり、議会が投票することになります。そしてこのような、名ばかりの共和党員が出てこなければいいのですが、共和党は30州を代表しているのに対し、民主党は20州しか代表していません。

さて、繰り返しますが、それは非常に可能性のあるシナリオであり、私はその日のうちに全てがDCで、ある種の集大成を迎えると信じています。私の考えでは、この爆発的な要素のためにDCに近寄らないこともできましたが、私はライオンの巣穴の中に入って、意見を表明し、祈り、神の行動を見ることを選びました。ちなみに、神の行動はどちらにでもなり得ます。私個人的にはトランプ大統領は、2期目の可能性が非常に高いと思っています。多くの人が希望を失ったことを、私は知っています。なぜかは分かりませんが、自分が間違っていると分かっているときだけ希望を失うのであって、自分が正しいと分かっているときに希望を失うではありません。自分が正しいと分かっているときには、希望を失ってはいけません。正義は皆さんとともにいるのですから。でも、皆さんに知っておいていただきたいのは、私はDCに行きます。そして、非常に面白いことに、イスラエルでも第4回目の選挙が行われることになりました。そして、ネタニヤフには何も保証されていません。実際、多くのイスラエル人は彼はこれでおしまいだと信じています。ですから、この二人の世界的指導者を中心に大きく展開する世界全体、“私の”世界が今、揺らいでいるのです。しかし、知っておいていただきたいのは、何かあるとすれば、この終わりの日々に、教会として、私たちの国籍はここにはないことを思い起こさせなければならないということです。(ピリピ3:20参照)また、これは競走であり、競走は短くないことを忘れてはなりません。(第一コリント9:24~27、第二テモテ4:7参照)私たちは忍耐強く走るように言われています。ヘブライ語では、それは「savlanut」、「忍耐」です。私たちは忍耐強く走ります。ご存知のように、私たちは非常にせっかちな民族です。パウロがピリピ人への手紙で書いているこの聖句を見てみましょう。彼はこう書いています。

**「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えることはありません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。」 (3章12節から14節)**

上向きの召しがあります。私たちの召しはここにはありません。それは上向きの召しです。私たちの競走はここにありますが、ゴールと目標と終わりはそこにあり、上に召しがある、と聖書は言います。その競走について、パウロが第一コリントで書いていることをお読みします。彼は、

**「競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。」 (9章24節)**

私たちは勝者として走らなければなりません。そして、

**「また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。」 (25節から26節)**

私たちは目標を知っています。私たちは、私たちが何に向かって走っているのか、私たちが信じているのは



どなたか、私たちのためだけにはずかしめをものともせず、すべてを苦しんでくださった後に、今、御父の座の右手におられる、私たちの信仰の創始者であり、完成者であることを知っています。（ヘブル12:2参照）私たちはこれが何を意味するのか、よく分かっています。しかし、聖書には「上向きの召し」があり、聖書はそれについて非常に明確に私たちに告げています。そして、パウロは勝てる方法で走らなければならないことを知っていました。そして、道中にはいろいろなことがあります。私たちはうしろのものを忘れて、ひたむきに、目標に向かって突き進んでいかなければなりません。そしてもちろん、パウロが人生の終わりを迎え、主から自分がもうすぐ死ぬということを知って初めて、パウロは

**「私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました。」（第二テモテ4章6節）**

と書けるようになったのです。それだけです。パウロはもうすぐ出発することを知っていました。そして初めて、彼は過去形を使うことができました。

**「私は勇敢に戦い、走るべき道りを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」（7節から8節）**

だから、私たちはここでメダルを取るために来たわけではありません。私たちは、持久力、粘り強さ、忍耐を持って走り、目標が何であるかを知り、決勝点がどこかわからないような走り方はしませんし、空を打つような拳闘もしません。そして、私たちが今死んだとしても、携拳が来るまで私たちの大半が生き続けても、その賞、冠、報酬は、パウロに与えられるのと同じ日に、私たちに与えられることを覚えておく必要があります。彼の魂は今キリストと一緒にいるかもしれませんが、まだ冠を受け取っていません。なぜなら、「かの日には…それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも」と書いてあるからです。あなたは、主の再臨を待ち望むそのグループに属していますか？朽ちることのないその冠、その報酬、その賞を受けるグループに？これが大事なことです。結局はそういうことなのです。

2020年はもうすぐ終わります。2021年がもうすぐやってきます。私が皆さんにお伝えしたいことは、2021年が素晴らしい年になると言えれば良いのになあ、ということです。つまり、世界経済フォーラムや世界保健機関などの話を聞いていると、私たちは彼らの言葉を真面目に受け止めねばなりません。なぜなら、彼らが正しいことが証明されているからです。私たちの世界を変えようとしている危機を演出したり、実行したり、発動したりしています。2020年の初めにウイルスを使ったとしたら、2021年にはサイバー戦争やサイバー攻撃を使うかもしれません。彼らは新しいウイルスを発明するかもしれません。分からないんです。つまり、私が言いたいのは、2021年を忍耐して、粘り強く歩んでいくためには、今、救いの確信が必要だということです。そして聖書には、キリストのこと、主イエスが経験しなければならなかったことを考えなければ、そのすべてを経験することはできないと書かれています。聖書には、

**「あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。」（ヘブル12章3節）**

とあります。皆さんは主を見なければなりません。皆さんの信仰の創始者であり完成者である、イエスから目を離してはなりません。私たちの誰もが血に至るまでの道りを苦しんでおらず、何も悪いことをしていない主は、罪人によって死に至るまで苦しみました。そして、私たちが持っている約束には多くの希望があります。それは主が来られて、私たちを連れて行こうとしておられること。栄冠が待っていること。私たちは神の御怒りのために定められているのではなく、この世界は神の御怒りのために取り置かれているということです。つまり、私たちが定められておらず、ここが取り置かれているなら、私たちはここから出ていけないといけないということです。全ての約束事に希望があり、世界が間違った方向に進んでいく中で、私たちは正しい方向に走ります。その目標があるからです。そのゴールが。



私は1月6日には国会議事堂に立ってそして、ホワイトハウスの目の前で、皆さんを励ましたいと思います。アメリカの上にも、イスラエルの上にも、自分の人生の上にも、神の約束を主張します。私の望みは…ミッチ・マコーネルやナンシー・ペロシは、どうでもいいんです。私には、神が何をなさろうとしているかが大事なんです。そしてかなり多くの方が、「なぜアメリカと、あなたの信仰を混ぜるのですか？」と言います。そして、私は言いたいのです。「どういう意味ですか、なぜ私が？」今のところ、神はアメリカを世界のリーダー、あるいは世界の超大国として選んでおられ、アメリカで起きていることの多く、ホワイトハウスや大統領執務室で決定されていることの多くがイスラエルに影響を与えており、それは間違いなく全世界に影響を与えています。だから日本でトランプのためにデモをしている人たちがいるし、台湾でもトランプのためにデモをしている人たちがいるのです。韓国でもトランプのためにデモをしている人たちがいるし、インドでもトランプのためにデモをしている人たちがいます。なぜ彼らはそうするのでしょうか？ちなみに、イスラエルでもトランプを支持しています。それは自分たちの国のことだけを気にしているから？違います。お聞きください。私たちはアメリカで何が起ころうかが、世界の他の地域にとって重要であることを理解しているので、正義が買われることを望んでいます。そして、私は受け入れます…お聞きください、正直に…もう一度、私たち信者にとっては、「生きることはキリスト、死ぬことも益です。」(ピリピ1:21参照)つまり、私たちは、1月6日に負けたり勝ったりするわけではありません。しかし、多数派が一人に投票して、もう一人が選挙を盗むというとき、正義が買われてほしいと思います。そして、胎児を大事にすること、家族の価値を大事にすること、祈りや信仰をもつ人々への思いやり、そしてもちろんイスラエルを大事にすることも継続してほしいと思います。私は、これらの聖書の原則のすべてが支持され続けるのを見たいと思っています。しかし最終的には、明らかかなことですが、神の御心が成就されることを、誰もが知っています。あちらで何か悪いことが起こっても、神は1月6日に神の御座から落ちることはありません。しかし、私たちはそこに行くつもりです。私たちは声を上げるつもりです。これが戦士がするべきことだからです。彼らは諦めません。彼らは最後まで戦います。だから私はあなたたちを励ましたいです。今、8時51分です。

あと1時間10分未満、1時間8分くらい後で、FacebookとYouTubeで「コロナワクチン、信仰、終わりの時」のビデオを初公開します。ぜひ、じっくりとご覧ください。

はい。ではこれで終了します。ご視聴ありがとうございました。

God bless you !

YouTube、Twitter、Instagram、Facebookでフォローしてください。こちらです。ご覧ください。

さようなら。



← スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2021.01.25 (Mon)